



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

2019 年

訓練会参加希望者各位

NPO 法人  
災害救助犬ネットワーク

## 訓練会（基礎・連携）への参加資格について

- 参加はメンバーであることを原則条件とします。
- 実働できる、連携できる意思が確認できる方。

いままで当会の方針として、訓練会、認定会、連携訓練などにも目的が同じならばメンバーに限らず区別なく対応してきました。その趣旨は組織違っても一緒に活動する仲間が増えてくることに期待し、その機会になるであろうと考え、制限を設けず区別をせず積極的に門戸を広げてきました。

しかし、運営上弊害となる傾向が顕著になり始め、何のために訓練会を行っているのか、またどのように訓練会を行っていくべきかを検証するために2年間、レドッグの来日時も区別することなく積極的に公開訓練を行ってきました。その結果を受けて資源の注ぐ先を見直し、訓練会、行事への参加をメンバーであることの原則資格条件としました。

一方、実働できる、連携できることが確認できる方という条件は人によって解釈は異なるかもしれませんが、当会として解釈は、DRDNのメンバーになれば目的を同じにしていることは明確になりますが、メンバー以外に事情があって入会できないのであるならば、その事情ではなく行動として実働できる、連携することが意思確認できる必要があります。それは客観的な判断基準としてもHPにも公開しています。

実働するためには訓練が必要です。犬だけの訓練ではありません。災害現場で共に活動するのは救助隊(消防、警察、自衛隊)です。それらとの実践的訓練が継続的に必要で毎年防災訓練とは異なります。

また自分たちでもイメージトレーニングを行っているか、それも一人ではなくチームとして行っているか、定期的、継続的に行っているか、犬の育成が途中であってもそのような訓練にサポーターとして参加しているか等々、実働を見据えているならば最低限の行動とはこのようなものであろうと考えています。

その上で、災害地で継続的な作業するには行政との折衝、救助隊との連携、装備、交代要員、物資補給等々、組織力も求められます。



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

災害出働をできればしたいという願望だけで現場に出かけることは非常識です。当会はNPO法人として社会から支援を受けています。願望だけでは許されません。

また、実働したことがあるということで実働できるということではなく、災害地へ行った時の行動、現場連携という観点、客観性から捉えています。

例えば、救助隊から指摘を受ける一つの現場には救助犬窓口は現場で一つであるべきで、協同して作業に当たる意思は過去の行動実績から判断しています。

これは当会独自の恣意的な基準ではなく、行政、救助隊からの指摘を受けたことで、自画自賛することなく謙虚に足元を固めるべきだと感じています。

他方、競技会のための訓練をしたり、他の認定試験のための練習をしたりすることを否定はしませんが、私たちが考える救助犬活動とは別次元のものです。

私たちはその区別ができておらず、犬さえいればというような感覚で対外活動をして錯覚を与え、社会、行政、救助隊から絶対的な信頼を得ることができていません。まずそれぞれがその自覚、区別をすることからあるべき姿を考えたいと思っています。

近年、消防との実践的な関わりを持つようになって、人命救助のための救助犬であるならば、できればやりたいなどという願望、かくれんぼ的なことで人命救助を謳っても、行政は救助犬を真剣に活用する具体的な思いには至らないと感じています。

いままで救助犬がイベントショー的に重宝されてきましたが、現場活用を真剣に考え出すようになれば行政、救助機関も救助犬を見る目はシビアになって来るはずですが。

私たちはメンバーの希望、受益のためだけに組織、運営しているわけではなく、社会に対して私たちの目的は人命救助のためであることをはっきり示さなければなりません。

このように方針を明確に公開している当会のメンバーであることはその目的と一緒に活動する意思表示の第一歩であると考えますが、当会での具体的な活動に触れ、そのうえでメンバーになるという選択も考えられるため見学参加を制限することはありません。

以上の判断よりもメンバーであるならば目的は同じであり選別の余地はありません。

今年、先進国スイスレドッグからパートナーとして連携協定を結び、協同して日本における救助犬のあるべき姿を探っていくつもりです。当会とレドッグは同じ目的ですが、未熟点が多くアドバイス、サポートを受けて基盤を築きたいと思っています。

寛容でありながらも、人命救助のための救助犬活動であるという決意は固く、そこへ向けて集中して行動していきます。犬の訓練機関ではなく、人命救助を目的とした救助犬機関であるからこそ貴重な訓練機会を無駄にせず、同じ目的に向かっている人々と訓練に関わることに資源を注いで行くつもりです。

なにとぞ当会の主旨をご理解のうえ行事への参加を検討いただければ幸いです。